

### 第9章 3. 宗教改革 a. 宗教改革の始まり

宗教改革とは[1 16]世紀の前半、[2 ルター]や[3 カルヴァン]らが腐敗化し墮落した[4 カトリック]を批判し、やがて[5 プロテスタント]とよばれる新しいキリスト教の流れをつくりだした改革をいう。[6 教会]や教皇の権威より[7 聖書]を上位におくところに特徴がある。

②[8 1517]年、教皇[9 レオ10世]は[10 サン=ピエトロ]大聖堂再建のためドイツで[11 贖宥状]を販売  
メディチ家出身 プラマンテ、ミケランジェロが設計

贖宥状([12 免罪符])…これを購入するという[13 善行]を積むことで、過去の[14 罪]が赦されると説明したもの。この販売が[15 宗教改革]のきっかけとなった。

→ドイツ、ヴィッテンベルク大教授[16 ルター]、[17 95カ条の論題]を発表しこれを批判



しだいに[18 カトリック]教会への批判を強める。([19 キリスト者の自由]の出版など)

→教会との対立激化 →ドイツ国民の諸階層(諸侯騎士・市民・農民)の支持をえる

③皇帝[20 カール五世]、ルターを[21 ヴォルムス帝国議会]に喚問し説の撤回を要求→拒否  
→反皇帝派諸侯(ザクセン侯ら)の保護を受ける。→以後、[22 聖書のドイツ語訳]に没頭

④ルターの主張

ア)[23 聖書]の重視…「人と神を媒介するのは聖書のみ」

→[24 教会]や僧侶は基本的には不要

イ)[25 福音]信仰= 26 魂の救いは善行でなく神の福音による

「人は信仰によってのみ義とされる」と主張(信仰義認説)、[27 善行]で罪は赦されない

⑤ 1524～25年 [28 ドイツ農民戦争]発生

ドイツ農民戦争…1524～25年中南部ドイツでおこった大規模な[29 農民反乱]。[30 ルター]の改革を支持する農民たちが改革を[31 農奴]制廃止、教会の改革、土地の自由使用といった現実的、社会的な課題と結合させておこした。指導者として[32 ミュンツァー]らがいる。

ルターの立場…改革が社会変革と結びつくことには[33 否定]的→領主による弾圧を支持

⑥以後、宗教改革は[34 皇帝]派(=カトリック)と反対派[35 諸侯](=ルター派)という領主間の対立と結合

ルター派諸侯→[36 領邦教会]制をとり、修道院廃止や[37 教会儀式]の改革などを実施

領邦教会制…[38 ルター]の考えを支持した[39 諸侯]たちが、[40 カトリック]教会から分離し、自分の領内だけで独立した教会組織を作り自らを[41 首長]とした教会制度。

→シュマルカルデン同盟(\*軍事同盟)を結成カトリック勢力と対抗→内戦([42 シュマルカルデン]戦争)に

ルター派諸侯は[43 フランス] (フランク1世)や[44 オスマン] 帝国(スレイマン1世)とも協力し戦う  
(=カトリック国 イタリア戦争) (=イスラム教国 →ウィーン包囲・プレヴェザの海戦)

⑦[45 1555]年の[46 アウグスブルクの和議]で妥協成立  
→カトリック=皇帝によるドイツ統一失敗=分裂の固定化

アウグスブルクの和議…[47 シュマルカルデン]戦争のなか、[48 1555]年成立した政治的妥協。神聖ローマ帝国内の[49 諸侯]らはカトリックか[50 ルター]派のいずれかを選択でき、[51 領民]はそれに従わねばならないという内容。これによりドイツは宗教的にも分裂、統一はいっそう困難になり、またこれ以後も宗教対立が続く。

⑧ルター派…[52 スウェーデン]や[53 デンマーク]など北欧にも広がる。

[54 1517]年、ドイツのルターが[55 九五か条の論題]を発表、ドイツ国内で販売されていた[56 贖宥状]に批判を加えたことをきっかけに[57 宗教改革]が発生、教会のあり方に反発をもつドイツの人々の支持をうけた。この改革をきっかけに農民たちは農奴制廃止などを求め[58 ミュンツァー]らを指導者に[59 ドイツ農民戦争]とよばれる大規模な農民反乱をおこした。  
ルターを支持する諸侯らはカトリック教会を離脱し[60 領邦教会]制をとり改革を進め、[61 プロテスタント]とよばれるようになった。こうした対立はついに[62 シュマルカルデン]戦争とよばれる内戦に発展、プロテスタント派は皇帝と対立する大国[63 フランス]やイスラム教国である[64 オスマン]帝国とも結び戦った。この争いは[65 1555]年の[66 アウグスブルク]の和議で一応の決着を見る。しかしドイツでの両派の対立はつづき、17世紀になるとヨーロッパ中を巻き込むような激しい宗教戦争である三十年戦争が発生する。

### b. カルヴァンと宗教改革の広がり

①スイス…1523以降、[67 ツヴィングリ]、チューリヒで宗教改革を進める  
→1531、カトリック勢力との戦いの中で戦死

③[68 カルヴァン]、[69 ジュネーブ]を拠点に独自の宗教改革を実施  
フランスの人文主義者  
神の[70 絶対主権]を強調する厳格な[71 聖書]主義を説く(主著[72 キリスト教綱要])  
→ジュネーブで[73 神政]政治を行う。

[74 予定]説をとき、禁欲的な[75 職業倫理]を説く  
→[76 毛織物]業者など商工業者、[77 独立自営農民]など各国の中産市民層に広がる

予定説…神の救済は 78 神によってあらかじめ定められている という考え方。そして人間は自分の救済を確かめるため[79 神の栄光を表す道]としての職業に励むことが要請された。したがって職業での成功は神の栄光を示す道と考え、人々は 80 勤勉な仕事と儉約 に励むことが求められた。

教会組織の改革=[81 長老]主義…教会員の中から信仰のあついものを牧師の補佐をさせる。

④各国のカルヴァン系の信者→カトリックなど既成の宗教・権力と激しく対立  
フランス=[82 ユグノー]、イングランド=[83 ピューリタン]([84 清教徒])  
[85 オランダ]=ゴイセン スコットランド=プレスビテリアン(長老派)